2022年6月28日
株式会社ロイヤリティ マーケティング

Pontaリサーチ会員3,000人に聞いた
第53回 Ponta消費意識調査　2022年6月発表

夏のボーナスの使い道、「貯金・預金」が9年連続1位、「投資信託」は過去最高の8位

～ 昨年調査から増加幅が最も大きい使い道は、「旅行（宿泊を伴うもの）」～

共通ポイントサービス「Ponta（ポンタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：長谷川 剛、以下「LM」）は、消費者の意識とポイントの利用意向を把握するため、「第53回 Ponta消費意識調査」を「Pontaリサーチ」にて2022年5月27日（金）～5月29日（日）に実施いたしましたので、ご報告いたします。

注目トピック　「夏のボーナス」の使い道

＜消費者意識＞
- **「夏のボーナス」の使い道**（P.2）
  - 調査開始以降9年連続で「貯金・預金」が1位。「投資信託」は過去最高の8位
- 夏のボーナスの「貯金・預金」の割合（P.3）
  - 夏のボーナスの支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人は、約6割
- 夏のボーナスの支給額（P.3）
  - 「20万円～40万円未満」の割合が、最も増加し26.8%
- 夏のボーナスの「貯金・預金の用途」「用途詳細」（P.4）
  - 「貯金・預金」の用途を「決めている」は42.7%で、 2020年調査から連続して増加
  - 「貯金・預金」の用途、「老後の生活への備え」が最多で57.4%

＜節約志向＞
- 消費者の節約志向（P.5）
  - 「節約したい」派は62.8%となり、前回調査より3.3ポイント減少

＜ポイントサービスの利用意向＞
- ポイントの活用意識と節約志向（P.6）
  - 「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が43.2%と最も高く
    「節約したい」派では、「いまつかいたい」が43.4%と最も高い。
    「節約したい」派に高いポイント活用意識がうかがえる

＜調査概要＞
調査方法： インターネット調査
調査期間： 2022年5月27日（金）～ 5月29日（日）
パネル　：「Pontaリサーチ」会員（Ponta会員で「Pontaリサーチ」への会員登録をしていただいている方）
回答者数： 3,000人　男性、女性×年代別（20・30・40・50・60代以上）の各10セルで300サンプル
※調査結果は小数点第２位を四捨五入しています。

＜引用・転載の際のクレジット表記のお願い＞
調査結果引用・転載の際は、“「Pontaリサーチ」調べ”とクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

＼ LMは、「Ponta」の「便利・おトク・楽しい」世界が、いつでもどこでも広がる生活密着型サービスを提供しています ／

消費者意識　「夏のボーナス」の使い道

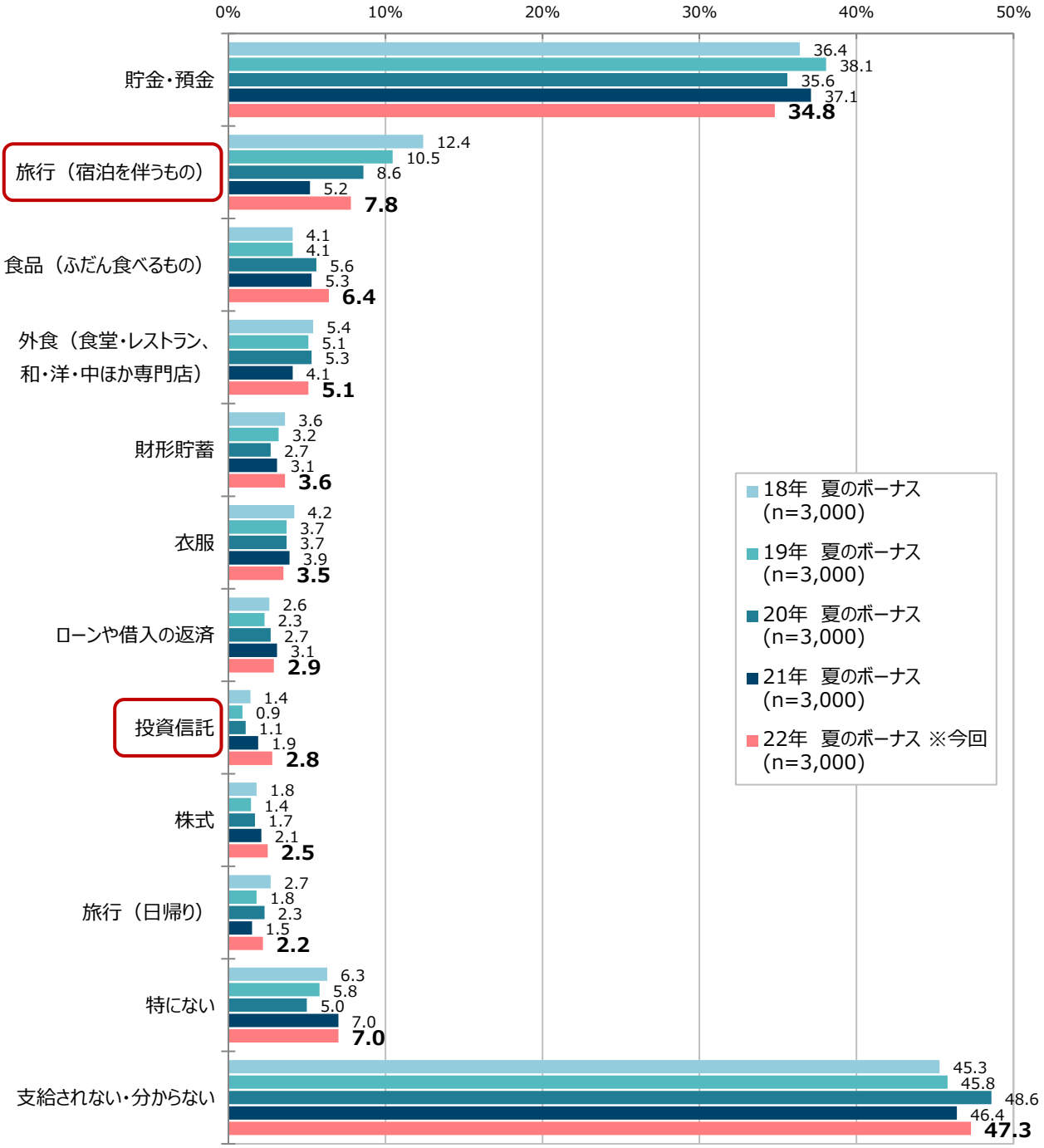
調査開始以降9年連続で「貯金・預金」が1位。「投資信託」は過去最高の8位

・2014年の調査開始以降、夏のボーナスの使い道は9年連続で、1位「貯金・預金」（34.8%）となった。次いで2位は「旅行（宿泊を伴うもの）」で、上位10位のうち昨年調査と比べて最も増加幅が大きく、2.6ポイント増の7.8%だった。昨年初めて上位10位入りした「投資信託」は、今回順位が上がり8位となった。

・「支給されない・分からない」は47.3%となった。

■今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。（3つまで）

※今回調査で上位10項目を抜粋（「特にない」「支給されない・分からない」を除く）　※回答が同数で順位に差がある場合は、小数点第2位以下に差があるため
※2014年・2015年・2016年・2017年の夏のボーナスに関する調査結果は、こちらからご確認いただけます。（https://www.loyalty.co.jp/storages/pdf/200624.pdf）



消費者意識　夏のボーナスの「貯金・預金」の割合 ／ 夏のボーナスの支給額

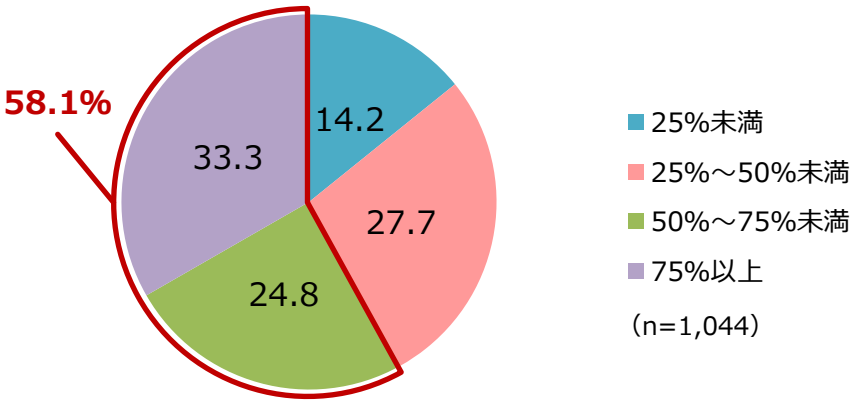
夏のボーナスの支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人は、約6割

・夏のボーナスの支給金額のうち、貯金・預金したい額の割合が「75%以上」という回答が33.3%、「50%～75%未満」が24.8%となった。
合わせると、支給金額のうち半分以上を貯金・預金したい人は58.1%となった。

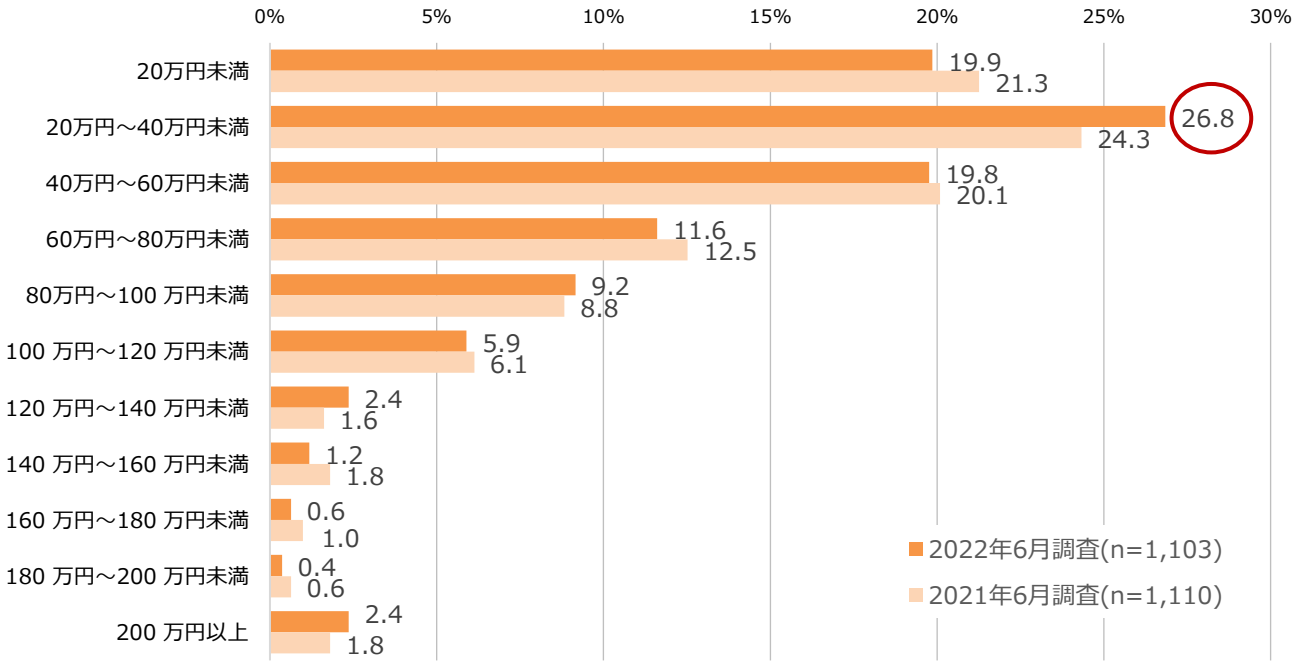
「20万円～40万円未満」の割合が、最も増加し26.8%

・夏のボーナスの世帯あたりの支給額（想定額を含む）は「20万円～40万円未満」が、昨年調査より2.5ポイント増えて、26.8%と最多だった。前後の金額帯「20万円未満」「40万円～60万円未満」は減少した。

■支給される金額のうち、どの程度貯金・預金したいか、お答えください。（単一回答）
今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■あなたもしくは家族にボーナスが支給される場合、今年の夏のボーナスの金額(世帯あたり)を教えてください。これから支給される場合は、想定される金額を教えてください。（単一回答）
「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。
※本設問で金額を回答した方を抜粋。（「分からない・答えたくない」と回答した n=479を除く）



消費者意識　夏のボーナスの「貯金・預金の用途」／「用途詳細」

「貯金・預金」の用途を「決めている」は42.7%で、 2020年調査から連続して増加

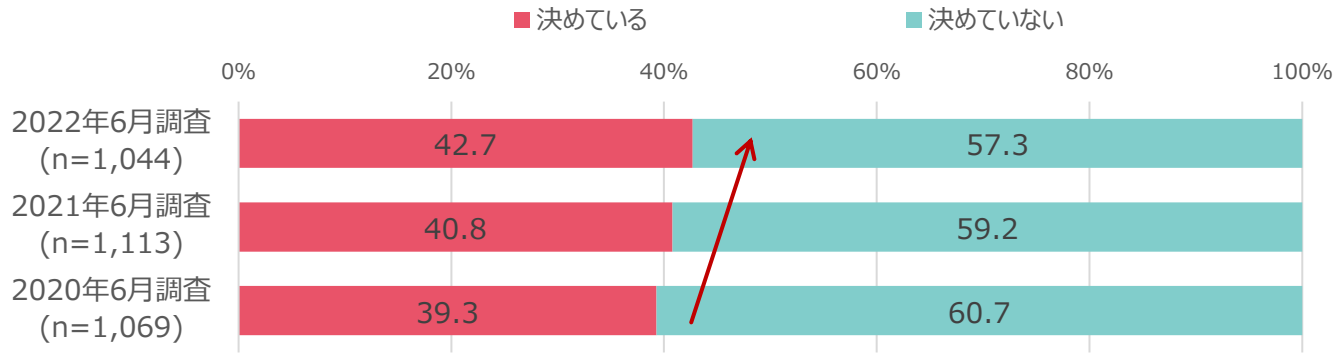
・夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」と答えた方のうち、用途を「決めている」のは42.7%となった。2020年調査から連続して割合が増加している。

「貯金・預金」の用途、「老後の生活への備え」が最多で57.4%

・「老後の生活への備え」が57.4%、次いで「将来の消費への備え」が51.8%といずれも50%を超えた。いずれも昨年調査と順位は変わっていないものの、割合は増えている。

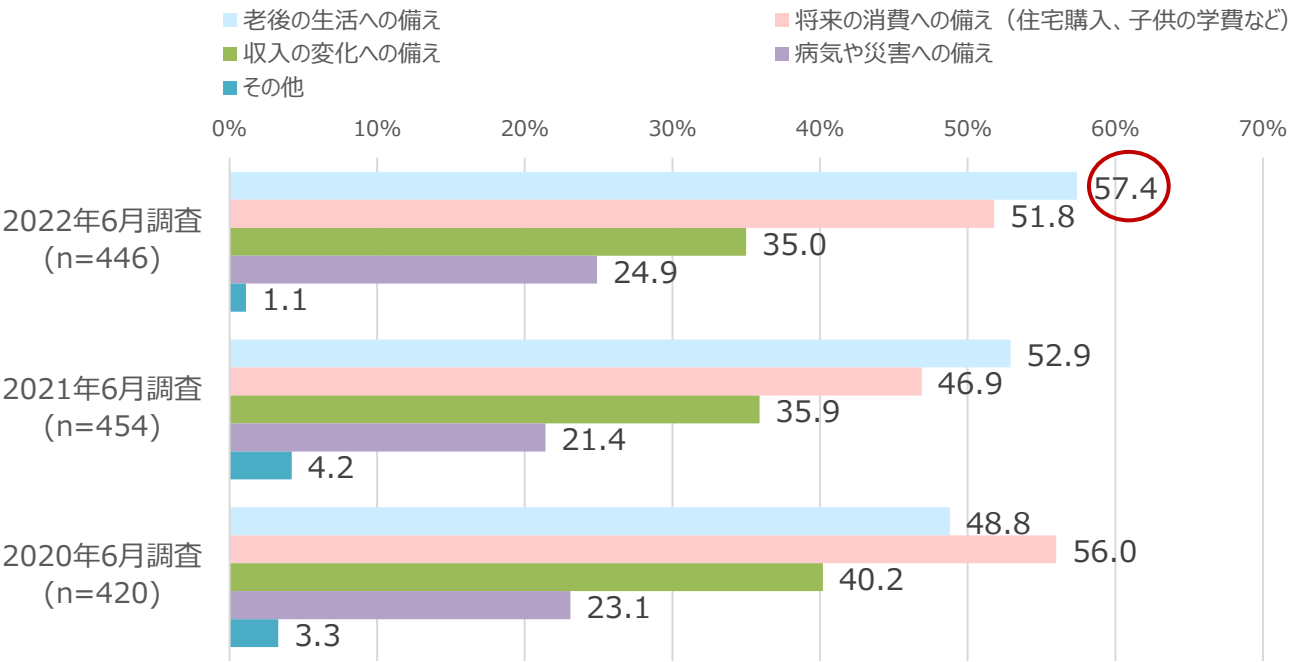
■「貯金・預金」の用途は決めていますか。（ひとつだけ）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■「貯金・預金」の用途を教えてください。（いくつでも）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のうち、用途を決めている方のみ回答。

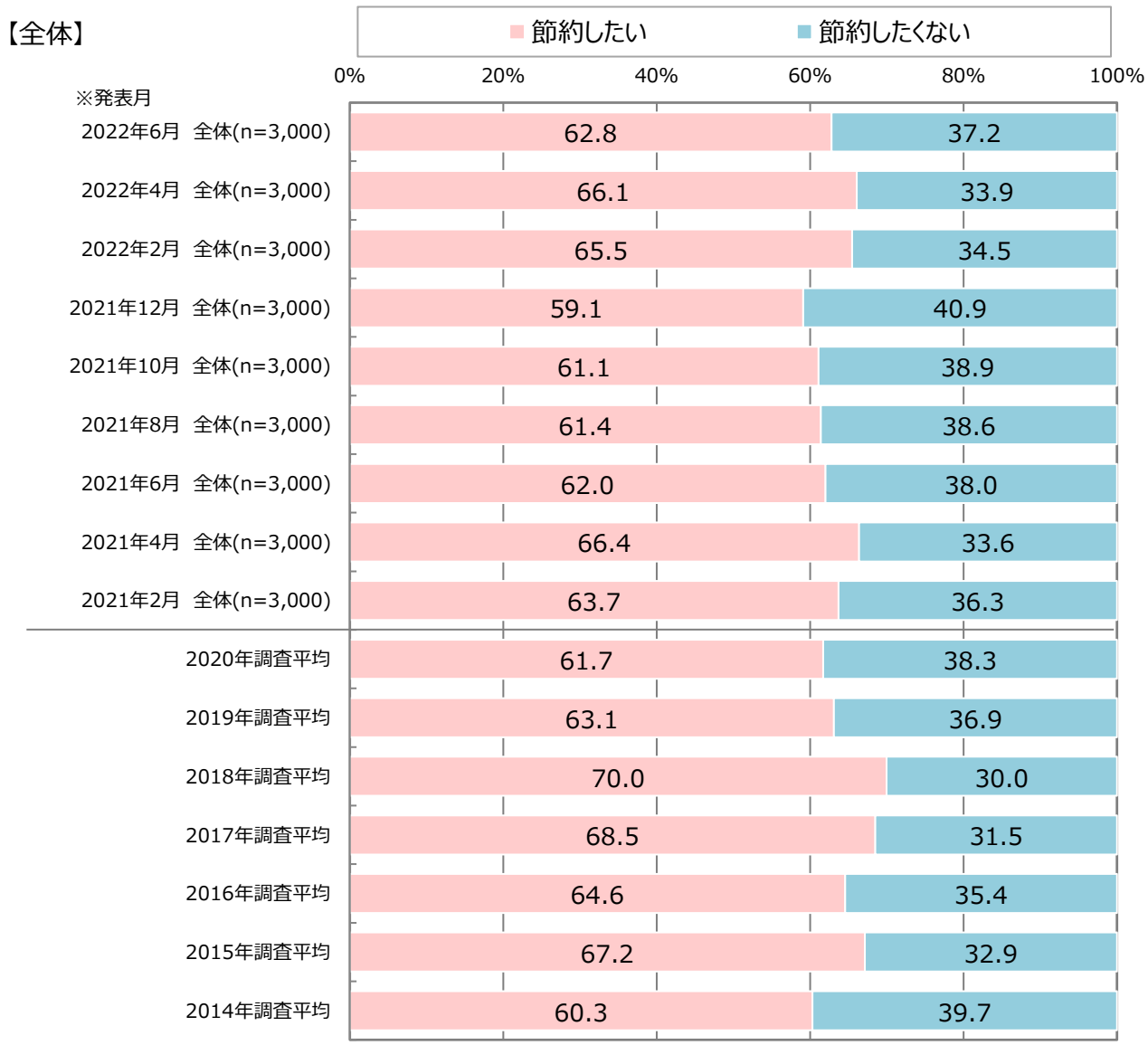


節約志向　消費者の節約志向

「節約したい」派は62.8%となり、前回調査より3.3ポイント減少

・今月の家計の支出を節約したい金額に１円以上を回答した「節約したい」派は、62.8%となった。

■今月の家計の支出を節約したい割合



・節約したい…節約したい金額が１円以上
・節約したくない…節約したい金額が０円

【参考】＜設問＞あなたは、今月の家計の支出をどのくらい節約したいですか。（半角数字で入力）
※とくに節約したいと思わない人は「0」と入力してください。

※2014年調査平均は4～12月の偶数月5回分、その他の年ごとの調査平均は2月～12月の偶数月6回分の平均です。
各調査n=3,000、2014年4月調査のみn=3,013です。

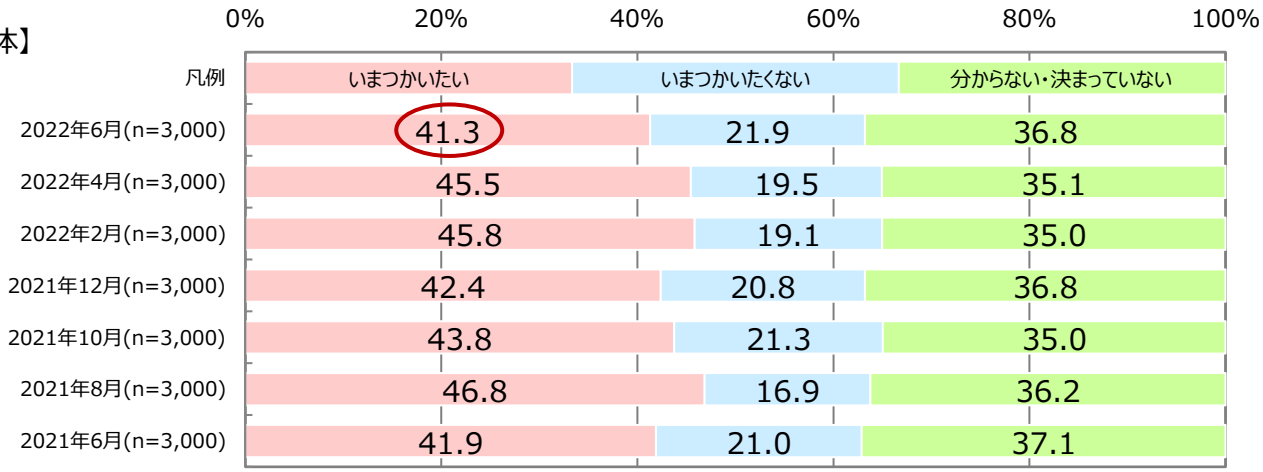
ポイントサービスの利用意向　ポイントの活用意識と節約志向

「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が43.2%と最も高く
「節約したい」派では、「いまつかいたい」が43.4%と最も高い。
「節約したい」派に高いポイント活用意識がうかがえる

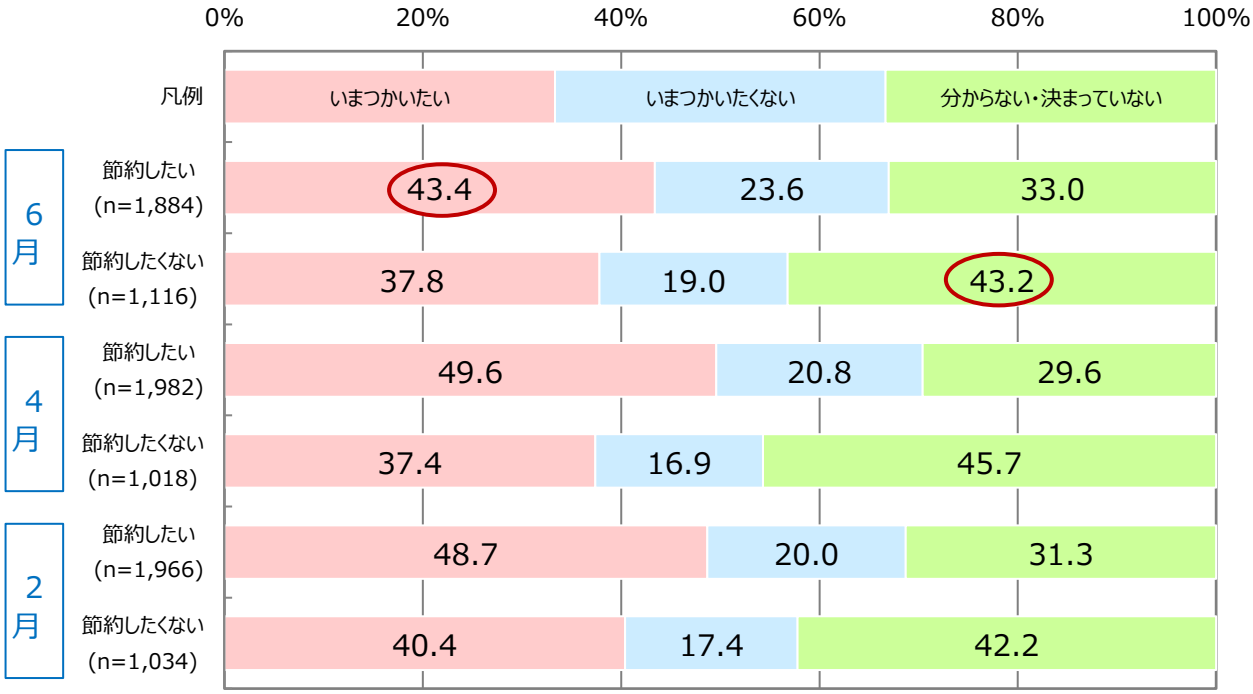
・いまPontaポイントをつかいたいかについて、全体で「いまつかいたい」が最も高く、41.3%となった。

■あなたはいまPontaポイントをつかいたいですか。（単一回答）

【全体】



【節約志向の有無別】　（2022年2月～2022年6月調査）



参考　「Pontaリサーチ」コンサルティング・リサーチチーム 見解

― 夏のボーナスの使い道、9年連続で「貯金・預金」が1位。
「旅行（宿泊を伴うもの）」は、昨年調査比で増加幅が最も大きい。「投資信託」は過去最高の８位。

Ponta消費意識調査では、2014年6月調査より毎年「夏のボーナス」の使い道について調べており、今年で9年目の調査となりました。

今年の夏のボーナスの使い道の**1位は「貯金・預金」**で34.8%でした。昨年の2021年調査から2.3ポイント減少しましたが、9年連続の1位となり、引き続き貯蓄意識がうかがえます。2位は「旅行（宿泊を伴うもの）」で、過去最も低い5.2%となった昨年調査から、2.6ポイント増えました。上位10位のなかで、昨年調査からの増加幅が最も大きくなっています。また、昨年初めて10位圏外となった「旅行（日帰り）」も今回は0.7ポイント増えて、再び上位10位入りしました。**2022年は、3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークであったこともあり、5月末に実施した本調査において、旅行意欲の高まりを反映したのではないか**とうかがえます。しかし、「旅行（宿泊を伴うもの）」について、新型コロナウイルス感染拡大前の2018年調査（12.4%）、2019年調査（10.5%）の数字には達しませんでした。

また2014年の調査開始後、昨年初めて上位10位入りした**「投資信託」（2.8%）は、今回さらに順位が上がり、過去最高の8位**となりました。Ponta消費意識調査では毎年10月に「冬のボーナスの使い道」も同様の項目で調査を実施していますが、2021年10月調査で「投資信託」は2.4%で9位でした。そちらの調査結果と比較しても、「投資信託」の利用意向の高まりがうかがえます。この他、金融関連の項目は5位「財形貯蓄」（昨年6位）、7位「ローンや借入の返済」（昨年8位）、9位「株式」（昨年9位）と、昨年調査から順位をアップまたはキープしました。

― 夏のボーナスの支給金額の半分以上を、「貯金・預金」したい人は約6割。
「貯金・預金」の用途を“決めている”は、2年連続増加し、42.7%

続いて、夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方に、ボーナスの支給金額のうち、どの程度貯金・預金したいかについて聴取したところ、**「75%以上」が33.3%、「50%～75%未満」が24.8%**となり、合わせて58.1%でした。2019年6月調査以降、支給金額の半分以上を「貯金・預金」したい人の割合は毎回60%前後となっています。

また、「貯金・預金」の用途について、決めているか否かを聴取したところ**「決めている」と回答した人は、42.7%**となりました。用途を決めているとの回答は、2020年調査では39.3%、2021年調査では40.8%となっており、徐々にですが増えています。次に、「貯金・預金」の用途を「決めている」方に、その用途を聴取したところ「老後の生活への備え」（57.4%）、「将来の消費への備え」（51.8%）といずれも50%を超えました。

今回の夏のボーナスの使い道調査でも、1位は「貯金・預金」となり、引き続き高い貯蓄意識がうかがえます。昨年調査からの変化が表れたのは旅行関連の項目で、行動制限の有無がボーナスの使い道に影響していることが分かる結果となりました。また、昨年から利用意向の高まりがうかがえる「投資信託」は、今回調査で過去最高の8位でした。日本政府から、個人の金融資産を「貯蓄から投資へ」と呼びかけられている中、今後どのように投資に対する意識が変化するのか、2022年10月調査で予定している「冬のボーナスの使い道」でも注目していきたいと思います。

＜「Pontaリサーチ」について＞
PontaリサーチはLMが提供するリサーチサービスで、Ponta会員のうち「Pontaリサーチ」にご登録いただいているPontaリサーチ会員を対象に、自主調査や企業および団体などから依頼を受けたアンケートをご案内しています。Pontaリサーチ会員の皆様は、アンケートにご協力いただくことでPontaポイントをためることができます。
「Pontaリサーチ」サイトURL：　https://www.loyalty.co.jp/ponta-research/

Pontaリサーチ